



図書委員の話。

基本CG10枚

差分34枚

400円

dd

図書委員の話。

図書室にいつも来る人がいます。
その人が来るのを、私は楽しみにしています。



「よう。今日も図書委員の仕事か。」

ドキ

「あ、先輩、今日は……。」

ドキ

私に知らない世界を教えてください。先輩……。



「それじゃあ今日もお勉強をしようか。」

ドキ

「お、お勉強、って何のですか、？」

ドキ



「とほけるなよ、わかっているんだろ？」

「あ、先輩、だめです、
こんなところで、」

ドキ

ドキ

チュ♡

チュ♡

チュ♡

「何言ってるんだ。前も「こ」で同じ「こ」をやったじゃないか。」

「あん、せ、先輩、……♡」

「へへ、相変わらずでかい胸してやがるな。」

ドキ

ドキ

チュ♡

チュ

先輩は私の胸を揉みしだき、キスをしてきました、……。誰か来るかもしれないこんなところで、……。



「ん、んんっ♡だ、だめ、先輩、ん、人が来ちゃう♡」

ドキ

ドキ

チュ♡

チュ♡

チュ♡

私の言葉など完全に無視して、先輩は私の体を貪り続ける♡

ん△

お♡

「へへ、相変わらずいい尻してやがんな、。」

「あ、せ、先輩、そんなに触らないで。」

私の制止など意に介さず、先輩は私の尻をもみ続ける。

んギュー

んギュー



ムキムキ

あ♡

「ん、んっ♡♡」

「おいおいどうした？何か濡れて来てるぞ。そんなに欲しかったのか？」

「ぞ、そんなこと♡♡♡♡」

ムキムキ

ムキムキ

ムキムキ



「おいおい何だこれは？もうぐちよぐちよになってるじゃないか。」

「んんっ……♡♡せ、先輩、♡♡♡」

「んんっ……♡♡♡」

「んんっ……♡♡♡」

先輩は私の下着の上から私のアソコを触る続ける……。

「んんっ……♡♡♡」

「全く触ってるだけでどんどん溢れてきてるじゃないか。そんなに欲しかったのか？」

「んんんっ♡♡ち、違、そんなことありません。」

グワッ

グワッ

ハハッ

ハハッ

「正直に言えよ。じゃないと」「」で止めるぞ。」

グワッ

「おいおい、指だけでイッチまったのか？全く発情しやがって。」

ビクッ

プンッ♡

「あっ♡ああっ♡♡んああっ♡♡」
ビクッ
ビクッ

「ああ、お前のこじこじ、すごい濡れてるな。へへ、美味いぜ。お前のこじこじ。」

ブル

ブル

「だ、だめ、先輩、そんなところ舐めないで、恥ずかしい。」

ハッ

421P

ハッ

私の言うことなど無視して、先輩は私のあそこを舐め続けた。でも、私のアソコから体液が止まることはない。

ブル

ブル

ハッ

4210

ハッ



「せ、先輩、お願いします、先輩のものも啜えさせてください」

ブル

ブル

長いこと舐められ続けた私は、先輩のものが欲しくてほしくてたまらなくなっていた。

ハッ

42110

ハッ

「んっ♡んっ♡先輩の♡♡先輩の♡♡」

ジュポッ
ジュポッ
ふっ♡

ジュポッ
ジュポッ
ふっ♡

先輩のズボンをおろすと、私はすぐに先輩のものを啜え込んだ。



「おいおい、そんなに俺のが欲しかったのか？」

ジュポッ
ジュポッ
ふっ♡

ジュポッ
ジュポッ
ふっ♡

「んむっ♡んぐっ♡は、はい♡♡♡これが
欲しかったんです、♡♡♡」



「ふー。どうだ？俺の汁は。欲しかったんだろ？」

「ふー、ふー、♡♡♡は、は、い、い、♡♡♡
これが欲しかったんです♡♡♡♡♡」

フー♡

フー♡

フー♡



ガッ

ガッ

ハハ

まハ

「あっ♡んあっ♡だ、だめ、♡♡先輩、♡♡
そ、そんなに激しくされたら、♡♡」

「何言ってるんだ。お前が望んだことだろう。」

「そ、そうだけど、こ、こんなのす、すごい♡♡♡♡
あっ♡あっ♡ああああ♡♡」

先輩は私を本棚に押し付け、私の中に思い切り
突き入れてきた。

ギョーッ
742

742♡

742♡



「あっ♡あっ♡んああっ♡♡♡
はあああああ♡♡♡」

びっしょり

びっしょり

びっしょり

びっしょり

びゅるる

ドクッ
ドクッ

ハア

ハア

「はあ、はあ、せ、先輩、すごかったです、♡♡
この間より、♡♡」

「そうか、それはよかったな。でも俺はまだ満足
してないんだよな。」

「え、？」

そして、そのまま先輩に押し倒されて、……。

ドゾ♡
ドゾ♡

「あつ♡んあつ♡
せ、先輩、もうだめ♡♡」

「悪いな。俺はまだ満足して
ないんだよ。いいから
黙ってやらせろ！」

「あん♡、♡は、はい♡、♡わかり
ました。せ、先輩、がしたい
なら♡♡」

先輩は私を床に押し倒すと、
そのままぬふぬふと私のあそこに
腰を打ち付け続けました。パン♡



ん♡

ん♡

ん♡

ん♡

パン

パン

「あっ♡んあっ♡ああっ♡♡
ああん♡♡♡」

「ああー気持ちいい。
いくぞ、いくぞ!!!」

射精しそうなのか、先輩の
腰の動きが激しくなってきました。

「は、はい、。来てくださいん♡♡♡」

パン



「あっ♡あっ♡
あああああっ♡♡♡」

「おっ、おおおおお!!」

先輩は喘ぎ声とともに、
私の中に大量の白い体液を
射精した。

ドクッ

ビクッ

ビクッ

アビュッ
ビュッ



これでようやく終わり、
そう思ってたんですが、私の
考えは甘かったようです。

「はー、♡♡はー、♡♡
先輩、♡♡♡」

ハッ

ハッ

ハッ



そのまま私はまた先輩に犯さ
れてしまいました。

「あつ♡あん♡先輩、もう
お笑いに♡♡♡♡♡」

「うるせえ！お前の体が
気持ち良すぎるのが悪いん
だよ。このまま俺に犯され
てろ！」

先輩はもう周りのことが見え
なくなっただけじゃなかった。服を
脱がし、ひたすら腰を動かして
続けました。

パニッ

ん♡

あ♡



パ
ン

フ
ク

フ
ク

フ
ク

パ
ン

まだ射精が近いの
だろうか。先輩の
動きが激しくなって
きました。

「あつ♡せ、
先輩♡♡♡」

「うぐっ！い、
いく！」

ん♡

お♡

「はあ、はあ、さ、
最高だったぞ、
お前の中、」

「はあ、はあ、♡♡
あ、ありがとうございます、
ございます、♡」

先輩は今までで
一番私の奥底に
大量の体液を
注ぎ込みました、

ハア

ハア

ハア

ハア

ハア



「あ、先輩、♡♡♡」

ドキ

ドキ

ドサッ

今日もまた先輩がやってきた、……。当然、私を犯すために……。

ムム♡



ドキ

ドキ

「はい、来てくださいますけど、先輩と繋がっていると、
今、人がいますけど、先輩と繋がっていると、
見せちゃいますし、先輩と繋がっていると、
?クス。」



今日も私は先輩に犯された。人に見られたかどうかはわからないけど。♡♡♡



この度は当作品をご購入くださり、ありがとうございます。

図書委員の話です。背景に図書室っぽい雰囲気を出しましたが、背景があった方がないよりも
雰囲気が出るような気がします。今後も余裕があれば取り入れたいところです。

s

※当サークルの全作品の無断転載（購入されていない方が閲覧できるようにする等の行為）はご遠慮願います。ご協力の程、よろしくお願ひします。